

コロナ題材 社会に関心 県研究会、8校が活動報告



新聞を活用した取り組みが報告された県NIE教育研究会全体会＝26日、福井市の県教育センター



県内のNIE(教育に新聞を)実践指定校の教員ら

でつくる「県NIE教育研究会」の本年度第3回全体会は26日、福井市の県教育センターで開かれた。実践指定校8校が1年間の活動

を報告。新型コロナウイルスによる差別や学校休校といったテーマを通し、児童生徒が社会への関心が高まったなどと成果を披露した。

実践指定校の教員ら約50人が出席した。福井市至民中は「感染症対策を通して社会と関わる」などをテーマに調べ学習に取り組んだ。生徒は「休校の影響」「9月入学」などの記事を読み、自分ごととして社会問題を考えたとした。同市麻生津小はコロナ禍で差別が起きた記事を基に、情報の受け手が注意することなどを話し合ったという。

休校で授業時間の確保が求められる中、坂井市雄島小は普段の学習で効果的に新聞を活用。担当教諭は「自ら考え表現する児童の育成を目指した」と話した。

県NIE推進協議会長で福井大教育学部の松友一雄教授は、冒頭の講演で「新聞には複数の解がある社会的な問題が数多く載っている。NIEの実践で子どもたちの多角的な考え方を養うことができる」と意義を強調した。(大西崇弘)